

ヴォックス音楽吟詠会



第68号 令和3年5月25日発行

会員ニュース

掲載責任者＝総本部広報部長 谷口 松華

令和2年度第12回総会開催延期

令和3年6月30日(水)静岡県熱海市ニューウェルシー湯河原ホテルを会場に開催予定で御座いましたが、新型コロナウイルスの感染防止のためやむをえなく延期決定を致しました事、ご理解ご協力の程お願い申し上げます。



草薙典龍総本部会長新年度挨拶

ヴォックス会員の皆様へ一言ご挨拶申し上げます。

お陰さまで本会は本年四十二年を迎えます。

これも偏に今は亡き創設者南雲一廣先生を慕われ、全国の諸先生の結束された信頼と絆の賜物で御座います。ただいまは、昨年より日本のみならず、世界に猛威を奮うコロナ禍被害で多くの人々がお亡くなられておられます。心からお悔やみ申し上げます。

コロナ禍の中にあつて、ヴォックス活動が思うにまかせず苦慮しておりますが、必ずや克服出来るものと信じて、本年の諸行事が完遂出来る事を念じております。

さて皆様ご承知とは存じますが、南雲先生が打ち立てられた「ヴォックス」とはギリシャ語の王冠の飾りで「声の王様の意」を表現して居ります。ヴォックスの特徴は「流派の持つ素晴らしい持ち味を生かして、束縛のない真の芸術吟詠で、人の心に息吹きを与え、荒廃した人心を、詩吟の魂で、生き返らせたい」との南雲先生の「信条」と皆様ご承知の通り「文部科学大臣賞」受賞がございます。

ヴォックスはこれからもこの「信条」と「文部科学大臣賞」を誇りとして、同志の皆様とお互いに手を取り合つて、融和を大切にしながら、日本真髓の吟詠界の一躍を担つて、少しでも世の為に貢献できれば、幸いと存じます。

終わりになりましたが、会員の皆様、コロナ対策を怠らず、健康に留意されて、変わらぬご活躍を願つて、私の挨拶と致します。

尊徳記念館と地区大会



神奈川地区本部長代行 山室瑞山

此々は県西の足柄平野です。中央を富士山麓を水源とする酒匂川が南下していて、兩岸には田園がひろがっているまだ自然豊かなところですよ。

手を翳して西を仰げば、天下の剣、箱根外輪山の一角、明神岳が雄大で紫虹に映えて、稜線の谷間から真っ白な霊峰富士山が大きく顔を覗かせていて、平野を見守っているかの様です。

北に目を移しますと、神奈川の屋根、丹沢の峰々が屏風のように立ちはだかり、北を遮っています。また東南は大きく開放的で、東海道を隔てて、湘南の海は、旭日に照らされて金波銀波に輝いています。

大自然に囲まれた平野の中心に近く、小田原市栢山の里は、皆様ご承知の二宮金次郎、後の尊徳の誕生地です。歴史を語る様な杜の中に、一際大きい建物が尊徳記念館です。

郷土の偉人、二宮尊徳を顕彰する記念事業として、昭和三十年に建設されましたが、その後大改修が行われて、六十三年に現在の建物と成り、三階には二百人を収容する講堂が完備されました。

以来、尊徳の生涯や、その教えを学び、また今日、私達の生涯学習の場として広く使用される様になり、

神奈川地区大会も毎年の様にこの会館から代表選手を送り出しました。

更に加えていま一つ、この会館に拘る理由は、次の詩文にあり、吟唱の喜びを肌で感じるからであります。

二宮金次郎

松口月城 作

見るべし 二宮金次郎 薪を負い 史をひもとき 嚴霜を踏む

少年已にあり 経政の志 智を磨き 農を励し 一郷を導く

人は仰ぐ 天下の大賢哲 報徳の遺訓は 光滅せず



また敷地内には、生家も保存されていて、多くの遺品や資料に接する機会でもあります。

強いて難点を申しますと、近年会館の利用が盛んで確保が難しい事です。半年前の利用申し込みに殺到、今年も抽選六回、延べ十二名を動員して漸く六月二十日(日)を確保致しました。

加えて新型コロナ禍対策等、利用条件も厳しく万全を期さなければなりません、今後も、当地区の拠点として、尊徳記念会館と連携を保ちつつ歩んで参る所存です。

ヴォックス音楽吟詠会群馬地区の概要

群馬地区本部長 関 勝風

群馬地区は、現在三流派五十一教場会員約三百名となつて居ります。

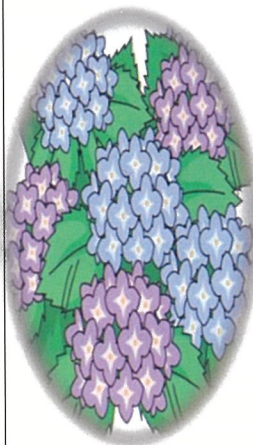
◆ 詩舞国壮流(国分国壮)創立昭和三十年、教場数 十一、会員七十名

◆ 吟道館流「伊勢崎吟詠会(関勝風)創立昭和三二年・上武吟詠会(石田暁風)創立昭和五十五年」教場数二十三、会員約百四十名

◆ 日本吟道学院「渋川吟道館(細谷龍直)創立昭和四十五年・芙蓉吟道会(諸田龍秋)創立平成六年」教場数十四、会員約九十名

各流派とも、各流派の発表・コンクール参加、ヴォックス音楽吟詠会主催のコンクール、群馬県総連主催の行事、剣詩舞研修会、指導者・会員研修会、施設慰問などの活動を行っています。

共通の課題は、高齢化と会員数の減少に頭を悩ましているのが現状です。しかし、未曾有のコロナ禍とは言え、座視していれば会員のモチベーションの低下が必ずあることが予想されることから、各流派ではそれぞれ感染防止の下、模索しながら勉強を続け、会員の意欲の維持・向上と会員数の増加に務めております。



(水憲) 浦上 堅司 作 (近畿地区事務局長)

観心寺探梅

かんしんじ たんばい
観心寺 探梅

○ ● ○ ○ ○ ● ● ○

清遼 華堂 浴仏光

せいすい せいすい かどう ぶつこう
清遼たる 華堂 仏光を 浴び

● ○ ● ● ● ○ ○ ●

誦経 隱隱 篆煙香

しょうきやう いんいん てんえん かお
誦経は 隱隱として 篆煙 香る

○ ○ ● ● ○ ● ● ●

梅花 含笑 使人樂

ばいか えみ ふく ひと たの し
梅花 笑を 含んで 人 樂しま使む

○ ● ● ○ ○ ● ● ●

春信 照彌 楠氏郷

しゅん しん あまね て なんし さと
春 信 彌く 照らす 楠氏の 郷

下平声 七 陽韻 仄起式 正格

▲印は平仄両用



「語訳」

清遼||清らかで奥深い。華堂||寺院仏閣。誦経||読経。仏教の経文を声をだして唱えること。隱隱||微かで明らかでないさま。響くさま。

篆煙||篆文字のような曲折しながらたちのぼる煙。線香。彌||いきわたる。あまねし。いよいよ。春信||春の花が咲いたことを知らせる便り。楠氏||河内の国を中心に南北朝時代に活躍した南朝方の武家。

「通釈」

清らかで静寂な観心寺・金堂は御仏の有り難い光りを浴びたかのように朱色の建物が光り輝いて見えます。微かに聞こえる読経と篆文字のように曲折しながら立ちのぼる線香の香りは、訪れた人の心を清め和ませてくれます。関西花の寺二十五番霊場に相応しい境内の白梅は一齐に咲き誇り小さな花はまるで笑って迎えてくれるようで、春の光りは楠木氏の故郷をあまねくてらしています。

「備考」

観心寺は飛鳥時代後期(七〇一年)役行者(えんのぎようじや)によつて開創。平安時代弘法大師により如意輪観音を彫刻されて本尊とする。南北朝時代後醍醐天皇は楠木正成を奉行として金堂を造営される。金堂は大阪府下最古級の国宝建造物。境内には南公建掛塔(重文)、鎮守堂(重文)、北斗七星塚、後村上天皇陵、楠木正成首塚、恩赦の講堂等がある。

又、観心寺霊宝館には地藏菩薩(重文)、如意輪観音(重文)、弥勒菩薩(重文)、宝生如来(重文)、釈迦如来(重文)、薬師如来(重文)、聖観音四体(重文)、十一面観音二体(二体は重文)などが安置されている。

松本城 「支韻」

「松本城」

信越地区・日本吟詠学院清流会 相談役 片倉 清彰

松本城のあゆみ

一五五〇「天文一九」 信玄・武田晴信、小笠原長時を追い深志城に入る。

参考 一五五三「天文二二」 川名島合戦第一回戦

一五五五「弘治元年」 第二回戦

一五五八「弘治三年」 第三回戦

一五六二「永禄四年」 第四回戦

一五八二「天正一〇」 本能寺変・小笠原貞慶深志城を回復し、松本城と改称す。

結仇甲越起身時

あだ むす ころえつ 起身の時

一世開城人使悲

いせい かいじょう 人をして悲しましむ

文禄回天望名月

ぶんろく かいてん めいげつ のぞ 名月を望む

星霜四百絆風姿

ほしそう しひやく ふうし ほだ 風姿を絆す

翩翩鴿雀臨薨宇

へんぺん こうじやく ぼうう のぞ 臨み

緩緩鯉魚舞碧漪

かんかん りぎよ へきい ま 碧漪に舞う

幻化恩讐皆若夢

げんか おんしゆう みな ゆめ こと 皆夢の若し

凜然聳立映瓊池

りつぜん しょうりつ けいち えい 瓊池に映ず

平成十五年五月

清風

片倉清彰

作



—室津に蘇る山吹御前—

遊女「友君」の塚・碑

播磨地区本部長・吟道賀堂流近畿本部長 石井 賀宗石 文責



室津の遊女の歴史は古い”井原西鶴は「好色一代男」の中で「室津は遊女発祥の地として広まった」と記している。

遊女「友君」とは源義仲の愛妾「山吹御前」のこと。義仲拳兵野際、巴御前と共に木曾より伴った便女（美女）であった。

源頼朝の差向けた追討軍と合戦の末敗れた義仲は討死当時妊娠中の「山吹御前」は、逃れて西国に落ちる途中室津に辿りつき出産。生児は産後まもなく亡くなりこの地に葬り供養する。

容姿端麗、芸妓に長けた山吹御前。我が子の眠る室津を離れ難くこの地で遊女「友君」と名乗り琴、今様、舞を見せ旅人の心を慰めていた。

建永二年（一一〇七）「法然上人」が讃岐に流刑になる途中の室津港停泊を知った「友君」は小舟を漕ぎだし上人に、罪深く悩む心の内を打ち明け救いを求めた。

仮そめの 色のゆかりの恋にだに

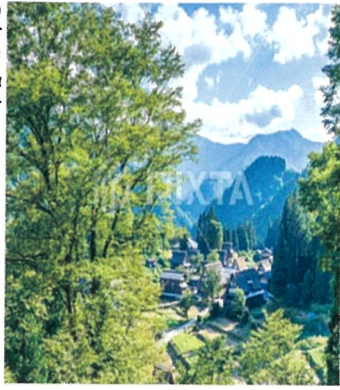
あふには身をも 惜しみやはする

法然

⑤

悟りを開いた「友君」は出家し尼となつて僧庵に籠り、御くしに線香の灰を混ぜて粘土で胴体を作り、完成した上人像を拝しながら夫義仲と我子の供養をつづけ生涯を閉じたと伝えられる。この「法然上人像」は今も浄運寺に安置され大切に奉られている。

故郷の原風景



日本の春の訪れ



令和4年度吟詠コンクール課題吟

漢詩の部

	吟題	作者	担当地区
1	山行同志に示す	草場佩川	信越
2	夜墨水を下る	服部南郭	神奈川
3	舟中子規を聞く	城野静軒	播磨
4	不識庵機山を撃の囟に題す	頼山陽	中部
5	偶成	朱熹	群馬
6	涼州詞	王翰	東京
7	春夜洛城に笛を聞く	李白	西中国
8	立山を望む	国分青厓	近畿
9	海を望む	藤井竹外	播磨
10	絶句	杜甫	中部

和歌・短歌の部

1	ひさかたの	紀友則
2	白鳥は	若山牧水
3	ああ対馬丸（下記に詩文有り）	南雲一廣
4	東海の	石川豚木
5	わが園に「令和・万葉序文歌集」	大伴旅人

「ああ対馬丸」 ^{つしままる} 南雲一廣 作

わが ^{むね}胸の ^{こころ}心の ^{かぜ}風に ^{はな}ゆれる ^{おさな}花 ^{おさな}幼いままの ^{けが}汚れなき ^{はな}花

※令和3年度全国吟詠コンクール開催（予定）

※令和3年9月26日（日）

※場所＝名古屋市教育センターホール

🏆令和3年度行事予定

- ・地区本部長会議＝6月30日（水）名古屋クラウンホテル
- ・令和4年度コンクール課題吟吹込み者決定（6月）
- ・令和4年度課題吟吹込み＝10月初旬 大阪サウンドフィールド
- ・令和3年度総会＝令和4年4月神奈川地区担当



メモ

A series of horizontal dotted lines for writing notes.

歴代文部科学大臣賞受賞者

❁	第20回(平成11年)	第4部	安政 敏	播磨地区
❁	第21回(平成12年)	第3部	原田 照夫	播磨地区
❁	第22回(平成13年)	第3部	金城 好英	中部地区
❁	第23回(平成14年)	第4部	太田 禮子	東京地区
❁	第24回(平成15年)	第3部	吉田 正信	東中国地区
❁	第25回(平成16年)	第4部	村尾 和彦	播磨地区
❁	第26回(平成17年)	第3部	小林幸三郎	信越地区
❁	第28回(平成19年)	第3部	盛満 真弓	播磨地区
❁	第29回(平成20年)	第3部	沢田千鶴香	中部地区
❁	第30回(平成21年)	第3部	北山 則子	播磨地区
❁	第31回(平成22年)	第3部	井口 隆子	中部地区
❁	第32回(平成23年)	第4部	長谷川 悟	播磨地区
❁	第33回(平成24年)	第3部	田辺 正幸	信越地区
❁	第34回(平成25年)	第4部	松村 進	群馬地区
❁	第35回(平成26年)	第3部	福井 幸子	播磨地区
❁	第36回(平成27年)	第3部	五島 里美	播磨地区
❁	第37回(平成28年)	第3部	石原 友子	群馬地区
❁	第38回(平成29年)	第3部	寺山 日幸	信越地区
❁	第39回(平成30年)	第5部	小山 恒生	中部地区
❁	第40回(令和1年)	第4部	森 民夫	中部地区